

熊谷不惑倶楽部 創立20周年記念誌

平成8年4月吉日
創立20周年記念誌委員会
代表 櫻田 健次郎



創立時の写真



20周年写真

目次

敬称略

I. 祝辞

[熊谷不惑倶楽部\(熊惑クラブ\)20歳の旅立ちを祝って](#)

熊惑クラブ会長

吉田嘉高

[熊谷不惑クラブ\(熊惑クラブ\)創立20周年を祝って](#)

熊谷市長

小林一夫

[熊惑クラブ創立20周年を祝して](#)

埼玉県ラグビー協会理事長

尾崎良巳

[創立20周年を祝して](#)

熊谷市ラグビー協会理事長

並木清治

[お祝いの言葉](#)

不惑倶楽部会長

千原 開

[汗と泥にまみれて](#)

栃惑プレジデント

横山 寛

[お祝いの言葉](#)

千葉房惑クラブ会長

清兼徳明

[お祝いの言葉](#)

群馬惑惑倶楽部フッカー

稲村義男

[熊惑クラブ創立20周年を祝して](#)

武惑クラブ会長

元山泰秀

[お祝いの言葉](#)

神奈川不惑クラブ会長

小原隆一

[祝 熊惑クラブ創立20周年](#)

芦屋楽惑ラグビークラブ会長

樋口 治

[私とラグビー](#)

岡山県桃惑ラグビー

渡辺 治

[二十周年を迎え思い出の記](#)

熊惑クラブ名誉会長

鎌田大朔

[熊惑クラブ創立20周年によせて](#)

熊惑クラブ顧問

山田光弥

[熊谷不惑倶楽部二十周年によせて](#)

埼玉レディース元キャプテン

橋田明代

II. 随想 - ラグビー仲間達 -

[我がラグビー人生に栄光あれ](#)

副会長

秋元永三

[熊惑クラブ20周年にあたり](#)

主将

一瀬浩壽

[次の目標に向かって](#)

F B

櫻田健次郎

[学ぶ心](#)

S O

渡邊義文

[熊惑クラブの思い出](#)

フランカー

内田秋作

[熊谷不惑クラブ20周年に思う](#)

フランカー

竹田 勝

[私のささやかなラグビー歴史の一齣](#)

S H

篠崎正夫

[熊惑クラブと私](#)

W T B

金田 悟

[棒になった男](#)

プロップ

飯田重雄

[熊惑クラブに感謝](#)

プロップ

田中 博

[私とラグビー](#)

S O

屋敷 博

[我がポジション考](#)

プロップ

根岸重年

[熊惑クラブの一員として](#)

C T B

福井孝俊

[熊惑クラブの一例目として](#)

プロップ

飯田 潔

[熊惑クラブ20周年によせて](#)

W T B

中村 孝

[「二十年」という偶然](#)

S H

松崎昌文

[熊惑の先輩方に感謝](#)

W T B

吉田加衛司

Ⅲ. [思い出のスナップ](#)

[思い出のシーン](#)

新聞等での紹介

[1976.4.19朝日新聞【往年のラグーよ集まれ】](#)

[1976.8.23東京新聞【熊惑クラブ ラグビーで“活”】](#)

[1976.9.14毎日新聞【お父さんかんばれ】](#)

[1976.10.1県民だより【ガンバレ中年ラグビーチーム】](#)

[1979.04.29新聞【さくら草 第2回武惑×熊惑】](#)

[1982.7.1会計所ニュース【楢田球との出あい】](#)

[1992.1.1読売新聞【夢ふくらませトライ】](#)

[1995.5.10毎日新聞【選手の心のふるさとラグビー場】](#)

Ⅳ. [広告](#)

Ⅴ. [編集後記](#)

[会員プロフィール](#)

[1996.4月20周年写真へ](#)

[home](#)

[1996.5.27記事へ](#)



このたび、我々の熊谷不惑倶楽部（通称熊惑クラブ）は、この4月をもってめでたく満20周年記念の式典を迎える運びとなりました。まことに喜びが尽きない感じが強く、今日まで、練習に、試合や遠征に、その他のいろいろの催物に快く参加してくれた仲間達に感謝申し上げます。そして又それ以上に、東京の不惑倶楽部をはじめ、群馬不惑や神奈川不惑のメンバーの方々には、定期戦等を通じて交流の場を広げていただき、いつも楽しく対戦していただいたことも、我々熊惑の会員全員の心の支えの一つであったと感謝しております。最近では、関東甲信越の不惑大会や近隣他県の不惑チームとの交歓試合も増え、楕円のボールの取り持つ縁での交流の輪は広がる一方で、本当に熟年パワーの活力に賛辞を捧げたい気分です。

熊惑クラブの生い立ちに、ちょっと触れておきます。昭和42年に、第22回埼玉国体が開催されましたが、熊谷市はラグビー競技の会場を受持ち、少年、生年、教員の3種目の競技の熱戦が4会場で行なわれました。国体終了後、緑の芝生が鮮やかなグラウンドでは、春の熊谷市民杯戦や秋の熊谷市文化祭大会が開催されました。当時は、ラグビーのチーム数も少なく熊谷商工高等学校や熊谷高校学校のOBチームがメンバーが中心的存在でした。そうした中で、熊谷商工OBのラグビー愛好者を主体にして、県の大会に出場出来るチーム「熊谷クラブ」が誕生しましたが、年を重ねるごとに新しい若いメンバーも増え、それに比例して我々年配者の出番が極度に少なくなり、楽しみの場が無くなってきました。まだまだラグビーには未練があり、死ぬまでラグビーを楽しみたいという「ラグビー馬鹿」の集まりで、「熊惑クラブ」は産声をあげました。昭和51年の5月の初旬に最初の練習を始めました。初めての公式試合は、その年の9月、熊谷の立正大学グラウンドでの対群惑戦でした。神惑さんをお願いしての昭和60年の香港への合同遠征や若手を加えてのオーストラリアへの2回の遠征等楽しい思い出は尽きません。そうした反面、一緒に練習に試合にと、汗を流しスクラムを組んだ仲間にも物故者がおります。この20周年を、無事に迎えられるのも彼らのお蔭でもあります。ここに、彼の仲間達に心より哀悼の意を捧げたいと思います。

いま、我が熊惑クラブは、チームワーク極めてよろしく又、練習の場所にも恵まれ、毎週日曜日のグラウンドでの練習には皆さんよくお集まりのようです。たまには、家庭サービスでもと考えると……、いや、たぶん誰も言わないでしょうが、後に続く不惑の愛好者が喜んで入会できますようにと、今の雰囲気を保って5年、10年と皆んな頑張っていきたいと思っています。

当クラブ20周年記念の小冊子に、お忙しい中にもかかわらず、原稿の依頼に応じて激励等の一分をおよせいただきました、大勢の関係各位の方々に感謝申し上げますと共に、記念式典や記念誌の資金面でのご協力ということで、広告掲載という形でこれ又、大変多くの関係者にお世話になりました。皆様の善意とご好意に囲まれて、これからも、熊惑クラブが今まで同様に活動できますようにと心に念じながら挨拶の言葉といたします。本当に、皆様ありがとうございました。



熊谷市のラグビー愛好者のクラブであります熊谷不惑倶楽部が、創立20周年を迎えましたことを、心からお祝い申し上げます。

熊谷市では、8年後に控えた第59回国体のメイン会場を受け持つこととなり、いろいろとその受入れの準備に取りかかろうという段階です。平成3年、熊谷市に落成した埼玉県の間宮ラグビー場も、次の国体開催時には、ラグビー競技の会場として多くの選手達を迎えることと思います。

聞くところによりますと熊惑クラブの誕生も、昭和42年の埼玉国体終了後、ラグビーを愛する方達の、スポーツに対する熱意と「暮らしの中にもスポーツを」とのかけ声から出来たと言われています。クラブのメンバーの中には、熊谷市の少年ラグビースクールの生徒の指導に情熱を傾けてこられた、本当にラグビーが好きでたまらないという方々が多いと聞いております。

熊谷市も、間宮の熊谷ラグビー場のオープンを機に、歴史と伝統に培われたラグビーをまちづくりに活かす「ラグビータウン熊谷」の積極的な推進を図っております。開場以来、熊谷ラグビー場では、関東大学ラグビーや東日本社会人大会の公式戦の試合が開催されております。そのようなチャンピオンスポーツとしてのラグビーとは別に、エンジョイラグビーとしていつまでも、練習や試合にとラグビーを楽しんでいる熊惑クラブの存在は貴重なものであります。

終わりに、「ラグビータウン熊谷」の推進のために、熊谷市民にラグビーに対する関心を高めそして又ラグビーの楽しさを教えてくれる役割を受け持っていただけたらと願っております。

熊惑クラブの創立20周年を契機といたしました、貴クラブのさらなる発展と皆様方のご健勝を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



熊惑クラブ創立20周年心からお祝い申し上げます。

熊惑クラブは、昭和42年埼玉国体の時に、熊谷市でラグビーが開催され、それを契機に熊谷市在住するオーバーザ40のメンバーが中心となり創立されました。当時ラグビーが盛んでなかった埼玉県に、多くの不惑チームの誕生を願い「埼玉不惑」を名乗らずに「熊惑クラブ」と称しました。

活動は毎週1回、国体のラグビーの会場であった荒川ラグビー場で熊谷クラブと練習や試合をして、関東甲信越不惑大会の参加は勿論、神奈川不惑、群馬不惑、東京不惑との定期戦を行っております。練習や試合で良い汗をかき、汗をかいた夏は冷たいビールで、冬は熱燗で、車座になっての楽しい談笑は、ラグビーの、勝っておごらず負けて侘れず、そしてお互いのプレーをたたえ合う「ノーサイドの精神」そのものであります。

台湾、香港、オーストラリアの海外遠征も行っております。オーストラリアのクィーンズランド州政府、クィーンズランド州ラグビー協会との友好、親善に努力をされ、平成2年12月にはクラブチーム、キングフィシャーズとの親善試合を熊谷市で行っています。そのチームのメンバーであったジョン・ブラス氏は翌年、さいたま120周年記念事業クィーンズランド州選抜対埼玉代表のクィーンズランドの監督で来県され、そのクィーンズランド州選抜のメンバーのうち12名が第2回ワールドカップのオーストラリア代表であり、埼玉県民に世界レベルのラグビーを見せた一役を熊惑クラブは荷ないました。

スタイルは、40才台の白パンツ、50才台の紺パンツ、60才台の赤パンツ、70才台の黄パンツ、80才台の紫パンツとなっております。

メンバーの目標は、三世代ラガーメン家族と赤パンツまでプレーをすることである。今後とも精進され目標を達成されますとともに埼玉県ラグビーの発展に寄与されますことをお願いいたします。お祝いと致します。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



熊惑クラブが創立20周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

顧みますと、昭和42年第22回国民体育大会が埼玉県で開催され、熊谷市がラグビーフットボールの開催地となり、これを記念して熊谷クラブと熊谷少年ラグビースクールが誕生し、県下各地にクラブチームやラグビースクールの広まりをもたらしました。現在熊惑クラブのメンバーの方々が当時熊谷クラブの主要選手として活躍されるとともに、熊谷少年ラグビースクールの指導者として今日に至るまで御尽力を尽くされ、埼玉県ラグビーフットボールの発展・振興に大きく貢献されておりますことに対して深く敬意を表する次第であります。

熊谷市は、平成3年に全国でも有数のラグビー場といえる県営スポーツ文化公園を有することと時期同じくして、第70回全国高校ラグビーフットボール大会において熊谷工業高校が悲願の全国制覇を成し遂げたのを契機に、生涯スポーツ活動の発展と健全な青少年の育成ならびに市のイメージアップを図るべく、「ラグビータウン熊谷」を推進しております。熊惑クラブが、埼玉国体のラグビー会場である熊谷市営荒川ラグビー場をホームグラウンドとして、毎週日曜日、和気あいあいの内にも厳しく練習に汗を流し、練習後も和やかに歓談していますが、それは正に、スポーツの原点を感じさせてくれると共に、「ラグビータウン熊谷」の先導者の役割を果たしております。熊谷市ラグビー協会と致しましても熊惑クラブの活動に積極的にご協力申し上げる所存であります。

終わりに、熊惑クラブ20周年を迎えられる今日まで、御尽力頂いた関係各位に感謝申し上げますとともに、熊惑クラブの益々のご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの挨拶といたします。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



熊惑クラブ創立20周年おめでとうございます。不惑倶楽部を代表して心からお祝い申し上げます。

貴クラブには毎年2月に市営ラグビー場でお相手をお願いするのが恒例となっておりますが、これは我々が三惑大会の前には少し手強い相手と厳しいゲームをしなければという思いからであります。

又、貴クラブは市営ラグビー場をホームグラウンドとして、チビっ子ラグビーを始め女性ラグビーの指導まで、家族ぐるみで休日を一日中ラグビーを楽しんでいるのは、本当に素晴らしいことだと感心致しております。

不惑倶楽部は惑ラグビーの元祖として昭和23年に発足し、現在会員数200人で、年間40回以上のゲームを楽しみ、活動の場は北海道から九州まで日本全国にひろがっておりますが、最近ラグビーを生涯スポーツと考え、三惑大会では40代、50代のゲームに加え60歳以上のゲームも組むようになりました。

平成4年には不惑倶楽部の60歳以上のメンバー26人でカナダに遠征しましたが、今年の10月にはカナダのブリティッシュ・コロンビアの60歳以上のチームが来日、大阪、福岡、東京で3ゲームを楽しむことになっております。

熊惑クラブさんも60才以上のチームを作って、我々の良き仲間となってくれるのを楽しみにしております。20周年を契機として、熊惑クラブさんの益々のご隆盛とご発展をお祈り申し上げて、お祝いの言葉と致します。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



熊惑クラブの皆様、創立20周年おめでとうございます。我々は未だ10年にも満たないのですが、定期戦など組んでいただき、お付き合いさせていただいております。ありがとうございます。

さて、標題の「汗と泥にまみれて」ですが汗と泥にまみれて、ラグビーをしたわけではないのです。ラグビーグラウンドを作るのに、汗と泥にまみれながら、金もないのに奮闘しているのです。

平成5年秋、偶然にもその場所が見つかりました。普段から、空き地や各市町村の運動場を探し回っていた私達は、大金という田舎町の近辺に、荒れ放題のグラウンドを見つけました。草茫々で、自動車まで捨ててありました。排水も悪く、雨のあとはグチョグチョです。

さて、この地が借りられるとなると、部員総出で草刈、溝堀、石拾いなど土木作業が日曜日ごとに繰り返されました。こんな風に述べますと、勤勉な、優等生的な姿をイメージされる方が多いと思われそうですが、皆様知っての通り、我がチームは、大酒呑みの、口うるさい、自分勝手な連中ばかりです。こんな作業も、わいわい騒ぐばかりで、後の呑み会を楽しみに集まってくる者が大半で、汗と泥と酒にはまみれていましたが、作業は、はかどりません。田舎に住んでいるにスコップを使ったことがない者や、ちょっと汗をかくと、すぐに「一服、一服」と休んでしまう者、年が若いほど、肉体労働をしたことがないようで、先輩から情けないと思われたことでしょう。しかし、文句を言いながら、休みごとに集まってくるのは他に楽しみがなくなってしまった者ばかりなのかも知れません。そのうち土地の所有者(森山産業株式会社)の桜の公園化構想が示され、桜の苗木千本の植樹作業の手伝い、ポール建て、芝植作業と整備が進み、ラグビー場らしくなりました。

平成7年11月3日には、県内関係者のみでささやかなオープン式典を行いました。平成8年春から県外チームを招待出来るように、シャワー等施設設備を考えています。しかし金がないのですから、どんな施設ができるやら。

貴クラブとの定期戦は、この大金グラウンドを予定しています。すぐ近くにヤナ場、温泉等があります。ぜひ、家族連れでお出で下さい。楽しみにしています。未長くお付き合いをよろしくご指導下さい。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)

熊惑クラブ吉田会長はじめ皆様には、貴クラブ創立二十周年誠におめでとうございます。千葉房惑クラブを代表し、心からお祝い申し上げます。

二十周年と聞いて、「もうそんなに！」と「まだそんなもの！」と相反する二つの感じがすることと思います。皆様の古いアルバムをめくると、きっと二十年前の時のメンバーが屈託のない笑顔で走りだしてくるでしょう。

高齢化社会といわれる現代で、不惑の年齢を越えた我々が、普段の節制と鍛錬を経て、生涯スポーツとしてラグビー競技に打ち込む姿を、次代を担う若い人達がどうみているか、正直言って多少気になります。ラグビーをする男の魅力は今一度考えると、プレイはもちろんそれ以上にラグビーに対する情熱とガムシラな姿勢にあると思います。我々が幾つになっても楕円のボールを追いかける理由がここにあると考えますが、熊惑の皆様いかがですか。しかし我々がラグビーをするにあたって『協力者』『理解者』の存在を、忘れてはいけませんと思います。雨の試合後の女房のあきらめ顔をみるにつけ、「ラグビーの妻は洗濯好きで友達好きが条件だ」とつくづく思います。熊惑の皆様いかがでしょうか。そういう意味でご家族の皆様の暖かい声援が、熊惑クラブを20年間も支えてきたと言っても過言ではないでしょう。

また私はラグビーを通じて多くの事を教えられ、多くの物を得ましたが、その中で最も大きな物は『より多くの友を得た事』です。昨年10月にNZクライストチャーチで開催された『ゴールデンオールデイズ』に参加し、更に多くの外国人の友人を得る事ができました。国籍や職業なども異なる人々が、一つのスポーツを通じて友達になるということは金銭に代え難いことです。今後もラグビーを通じて、「どんな新しい友と巡り合えるか」それを考えただけでも楽しくてしかたがありません。この気持ちは熊惑クラブの皆様にもお解り頂けることと思います。

熊惑クラブの皆様とは、東日本大会や関東甲信越大会などで対戦させていただいておりますが、熊惑クラブは強豪チームであることは勿論すべての面において房惑クラブの模範です。実力は両チーム伯仲し、なかなかの好ゲームを展開してきましたが、房惑クラブが熊惑クラブと対戦する時は、皆が他チームとやる時以上に燃えるようです。

これからもお互い切磋琢磨し、厳しいながらも勝敗にとらわれないで(しかし正直言って勝ったほうがビールは旨い)、次代を担う若い人達の模範となるようなゲームを、ぜひ続けましょう。またこれからは、毎年定期戦をやりませんか？このためにもまず我がチームの芝のグラウンドへ、大勢でお越し下さい。私を初め赤パンツの面々が、皆様に強烈な「炎のタックル」で、盛大に歓迎いたします。

千葉房惑クラブも、平成十年にはお陰様で創立十五周年を迎えることが出来ます。その際には是非熊惑クラブの皆様からも多くの叱咤激励のお言葉を頂たいき、兄弟クラブチームとして今後も末長くお付き合いのほど宜しくお願い申し上げます。

我々アマチュア特にラグビーをする者にとって引退など有り得ません。ラグビーは確かに危険なスポーツですが、お互いにこれからも怪我をしないように努め、いつまでもいつまでも楽しいラグビーが出来る用心掛けましょう。

最後に熊惑クラブの皆様の益々の御健勝と熊惑クラブの一層のご発展を心よりお祈りしてご挨拶と致します。



熊惑クラブの皆さん、クラブ創立二十周年おめでとうございます。

クラブ創立時四十歳の方たちは、六十歳になりさぞかし赤パンツの欣を味わって居ることでしょう。私も十三年前高崎高校のグラウンドで試合終了後、当時のキャプテン金子さんから赤パンツを頂きました。その時の嬉しさは、それまで味わったことのない嬉しさでした。

私は軍隊経験者ですが、戦死された戦友ラグーマンを代表していただいたのだと心にきめ戦友達の分まで喜びました。そして熊惑の皆さんと群惑も益々盛大になり赤パンツ一色でプレーしたいものです。

熊惑の皆さんについて殊に感銘をうけたのは、今年の九月二十三日の熊谷ラグビー場におけるラグビースクール交流試合の時でした。私が何故其処に居ったかと申しますと、私の二女夫婦が勤務の関係で籠原にいて孫が籠原のラグビースクールにお世話になって居り、当日出場するというので熊谷ラグビー場に行ったわけです。そして私は強烈なインパクトを受けました。それはその組織だった大会運営、そして何よりも埼玉県各地から集まったチビッコラグーが真剣に闘ってるさまを見、更にそれを指導なされている各チームの先生たちのチビッコラグーにそそいでいる暖かい眼差しを眼の当りにして本当に感心しました。今更ながら熊惑は我々群惑にとって手強い相手だなと肝に銘じました。

今後も熊惑のさらなる発展を願うと同時に私達群惑との交流を一層強め両県の次代を荷うラグーの為に頑張ってください。

熊惑創立二十周年おめでとうございます。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



熊惑クラブ創立20周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

20年前の朝日新聞の地方版に秋元さん等の呼び掛けでオーバーザ40の部員募集が出ていました。私も参加させて頂こうと思い連絡しましたが、当時は熊谷と越谷の距離を感じお断りしました。それから20年、熊惑クラブは地元熊谷の熟年者を中心に荒川グラウンドで充実したチーム作りをされました。これもスタッフは勿論のこと、部員各位の情熱と努力の賜物だと思います。

武惑クラブも17年前に浦和不惑を中心に越谷、春日部、川越地区のオーバーザ40のメンバーで結成しました。各母体のチームと縁が切れないのと、グラウンドの確保が難しい等の理由で名ばかりのチームで年間の試合数はかぞえるほどしかありません。毎年秋におこなわれる関東甲信越不惑大会には熊惑クラブと共に埼玉不惑クラブとして参加させて頂いています。この点、熊惑クラブにはいろいろご迷惑をおかけしていると思います。しかし、93年の15周年を機に少しずつ若手(40代)が入ってきていますのでお互いに切磋琢磨し、又協力していきたいと思います。

今や熊谷市は立派な県営ラグビー場があり「ラグビータウン熊谷」として国体に名を馳せています。10年後の熊惑クラブ30周年の頃には、2巡目の埼玉国体の主会場とラグビー会場が熊谷市に決定しています。現在でも部員100名を超すラグビースクールから、高校・社会人・クラブ・惑のチームまで全国の範たるチームが揃っているラグビータウンの実現が楽しみです。

クラブチームも今や全国大会が開かれるようになり(第1回の全国クラブ大会は熊谷で開催)レベルの高い厳しいクラブから、楽しいラグビーをモットーにしているクラブや更に生涯ラグビーに情熱を注ぐ惑ラグビーまであります。この惑のクラブの活動も盛んになっています。全国では60以上惑のチームがあります。関東甲信越不惑大会も10回を数えました。

惑のラグビーは年齢、体力に応じて自分に納得出来るゲームを行う、所謂、責任ある自己満足に徹することだと思います。年長者に敬意を表しつつ、モラルある健康的な道楽でしょう。しかし、基本的にはプレイの理念、ラグビー精神は若いクラブチームの範たるものでなければなりません。その点、熊惑クラブは若いチームともゲームを組みオープンプレイに徹し、展開ラグビーを実行されています。

同じ埼玉県内の惑のチームとして武惑クラブも熊惑クラブを目標に追いつけ、追い越せと努力していきたいと存じます。そして必要な時には埼玉不惑クラブとして強力なチームで楽しみたいと思います。私事で恐縮ですが個人的に数多く熊惑クラブのメンバーの方々とお付き合いさせて頂いています。私の大きな財産だと思っています。今後も武惑クラブ共々、変わらぬご厚情をお願い致します。

最後になりましたが熊惑クラブがこの20周年を節目に一段と飛躍され、ラグビータウン熊谷のリーダーとして活動されます用、又会員の皆様方のご健康とご活躍を祈念いたします。

熊惑クラブ20周年、おめでとうございます。

お祝いの言葉

神奈川不惑クラブ会長 小
原隆一



この度、熊谷不惑クラブが創立20周年を迎えられ、その記念行事として、「熊惑クラブ20周年記念誌」を発刊されるに当たり、神奈川不惑クラブを代表して心よりお慶び申し上げます。

熊惑クラブと神惑クラブが初めて交流試合を致したのは、昭和55年9月28日(保土ヶ谷ラグビー場)のゲームでしたが、当日は前夜来の雨の影響でグラウンドコンディションが非常に悪く皆様に大変ご迷惑をお掛けしたことを記憶しておりますが、以来回を重ねること今年で16回を数えております。その間、昭和60年には熊惑クラブとご一緒に香港遠征をさせて戴きましたし、又平成元年より熊惑・群惑・神惑による三惑大会の継続的開催等、常日頃より熊惑クラブには大変お世話になっており感謝しております。

この度の熊惑クラブ創立20周年を契機として、熊惑クラブと神惑クラブの交流試合が、将来共未長く継続され、しかも白パン・紺パン・赤パン別と申しますか年代別にハッキリ分かれたメンバーでの試合も可能となりましょうから楽しみ(赤パンの立場から)です。どうかその面からのご指導ご鞭撻をもお願い申し上げます次第です。

今後も熊惑クラブの益々のご発展とご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



熊惑クラブの20周年を祝し、芦屋楽惑クラブ一同心からお慶び申し上げます。

貴クラブとの交流は、平成6年5月に秋田市で行われた不惑全国交流大会で胸をお借りしたのが初めてでした。

そして今年平成7年1月17日、戦後最大の惨事となった阪神大震災で打ちひしがれていた我々に、貴クラブからの温かい励ましとクラブメンバーの方々からのカンパによる義援金を早々にお送り頂き、我々一同どんなにか感激したことでしょう。

今回の阪神大震災は、神戸、芦屋、西宮、当の阪神間の都市に壊滅的打撃を与えると共に近代造成都市、住宅都市への試練と警告また今後の日本の災害対策に種々な教訓を与えてくれたとも云えましょう。

芦屋楽惑クラブのメンバーの80%がこれらの被災地にあり、家の倒壊や半壊ほか、相当の被害を受けました。一時は何も手につかない状況でしたが、全国のラグビー仲間よりの力強い励ましの言葉、温かい御援助を戴き、ラグビー仲間の絆を改めて認識し、ラグビーをしていて本当によかったとラガーマンの誇りを嬉しく思っております。

一時は日常生活を取り返すのが精一杯で、ラグビーどころではありませんでしたが、月日の経つにつれ、スポーツ、ラグビーで汗をかく健康生活、ラグビーが生活の一部でもある我々にとっては、グラウンドで汗かき走ることを渴望されていきました。学校をはじめ公共のグラウンドや広場には仮設校舎や仮設住宅が建ち、使えるグラウンドは皆無の状態であり、ラグビー活動も一時中止せざるをえない状況でしたが、被害の少ない近隣の学校や企業の御厚意でグラウンドの使用が一部可能となり、有難いことに6月頃より日曜日の一時をラグビーで汗かくことが出来るようになり、試合も出来るようになりました。

病気になって初めて健康の有難さを痛感するように、ラグビーが出来なくなって元気にラグビーが出来ることの有難さをつくづくと思ひしらされました。

芦屋楽惑ラグビークラブは1980年(昭和55年)に誕生しました。すぐ近くには西の横綱名門大阪惑惑クラブがあります。惑クラブの仲間入り、存在価値として、我々芦屋楽惑クラブは「小さくともユニークで素晴らしいクラブ」にとの理想を掲げ、我々なりに努力し今年15周年を迎えました。これまで御交誼戴いているクラブは26にのぼり、試合数は140を越えました。現在会員数は60名です。私達のモットーは、「年齢体力に応じた精一杯の努力」「何時までも変わらぬラグビースピリット」で勝敗にこだわらず何時までも出来るだけ長くプレーすることを惑クラブのモットーと心得、年齢制限を守り、どんなに苦しい状況に於いても、試合には自分達のクラブメンバーで行なう、参加したメンバーがベストメンバーとしてフェアプレーで頑張ってきた。

今年芦屋楽惑の記念すべき15周年に、未曾有の大地震を経験したことは、与えられた「試練」と受け止め、種々な困難を克服し初心に帰り不屈のラグビースピリットで又一からスタートする気持ちで頑張りたいと決意しています。今後とも何卒よろしく御指導御交誼のほどお願いいたします。

貴クラブの益々の御発展をお祈り申し上げます。



19歳の春、希望の大学に入り千葉県市川市の幼稚園のようなカラフルな校舎で入学式を迎え、ふとグラウンドに立ち寄ると、十名程の先輩が楕円形のボールを一生懸命追いかけていた。高校時代これといったスポーツもせず、冬の体育の授業で何回かやっただけの私の目から見てもお世辞にも洗練されているとは思えず、ぽろぽろボールを落としている様は、見ていて歯痒くさえ思えた。それから数日が経ち、たまたま講義のとき隣に座った同級生のお兄さんが、ラグビー部のキャプテンでなんとなく誘われるままグラウンドにいったのが、私のラグビー源体験でした。

当時の我が大学は、サッカー部が関東医歯薬リーグ1部常勝のチームであり、グラウンドは彼等に独占されていた。我々のクラブはグラウンドの片隅で、関東医歯薬リーグ2部の悲哀を噛み締めていた。このごろ部長兼監督が秋田高校OBと言う事もあり、夏休みの合宿を秋田で行うこととなり、毎年秋田八橋のグラウンドを借りる事ができ、秋田高校、秋田商業、金足農業といった高校生の胸を借りて徐々に強くなっていった。数年は瞬く間に過ぎ、卒業も近ずき、6年生最後のリーグ戦(3年前から1部に昇格)最終戦で念願の1部優勝をはたし、美酒に酔い神田の町で裸踊りをして警察で始末書を書かされたのも今では良い思い出となった。こうして私のラグビー生活は終りを告げ、以来15年間研究者生活に入り、ほとんどラグビーとは縁のない生活をしてきた。

こう見てくると私のラグビーはスキルを磨いて、体力を付けてというより楽しく、仲間を作って、程々という本物のラグビーマンから言わせれば風上にも置けないといったものだったような気がします。ラグビーは楽しいスポーツだということを肌で感じることができ、その気持ちを今次男が熊谷ラグビースクールで味わっている。数年前皆さんの熊惑にいられたいただき、20年ぶりに楽しい思いをさせていただきました。熊谷に全く知人のいなかった私にとって、熊惑の皆さんと知り合え、一緒に酒を酌み交わした日々は、生涯忘れることのない思い出となりました。何回か試合にだしていただき、20年前の感動が甦ってきました。しかし50に近い身体は20分ハーフの試合を楽しむまでに、1年半を要し、初めの半年は身体の節々がいたく、練習後の2～3日は寝返りも打てないほどでした。でも何とか皆さんと走れるようになり、今では日曜日に練習がないと物足りなく思うようにまですりました。現在熊谷からは遠く離れた倉敷で、家業を継いでおりますが、できるだけラグビーと係わりながら、生活を楽しむように心掛けております。岡山は埼玉と違ってラグビー後進県ですが、私と同じくラグビーを楽しむ人はいるもので、熊惑のときと同じく、日曜日にはグラウンドに集まり、スクールの子供達と楽しく走り回っております。今年は残念ながら都合で中止になりましたが、近い将来熊惑を向かえ、我々の桃惑と楽しい試合ができるよう準備しておくつもりです。そして熊谷を訪れた時は一緒に仲間に入れて下さい。

熊惑の20周年の記念誌に一文を載せていただく光栄にお礼申し上げますと共に、今後の発展そして皆様の健康を願って筆を置きます。



光陰矢の如しと謂われますが、たしか昭和五十年四月の朝日新聞の埼玉版に「フォーティーオーバーラガー集れ」の記事を見てはや二十年を過ぎました。昭和十九年以来中断していたラグビーが出来る喜びに早速馳せ参じた次第です。初会合の顔ぶれは、宇田川、天沼、山田、秋元、吉田、鯨井、並木の諸兄ではなかったかと思えます。

以来、群惑を始めとして東京・神奈川不惑クラブと定期戦を組み順次ゲーム数も増え夢にも思わなかったオーストラリア遠征も二回敢行し今日の熊惑の発展に繋がったものと推察します。

誠に恐縮ですが小生個人の脳裏に浮かぶゲームの思い出の二、三を記します。

(1) 台湾遠征

昭和五十五年に当時台湾ラグビー総監督の柯子彰さんと連絡がつき二十名位同行し台北総合グラウンドにて対戦し当日は相悪く前夜来の雨でぬかるみのなか悪戦苦闘し残念ながら敗れましたが夜のミーティングでは思わぬ歓待にあずかり夜の台北の気分を充分満喫させて貰い増した。

(2) 群惑ナイター戦

年月がはっきりしませんが後にも先にも唯一のナイター戦だと思います開始前レフェリーから若干電光が弱く薄暗いのでエキサイトしない様にとの注意があつてプレーが始まりましたが心配された通りお互いに二、三ラフプレーがあり荒れた試合となり残念ながら後味の悪いゲームでした。

(3) 関東、関西、九州三地区大会

役員方のご厚意により齢七十余歳にして全関東のメンバーの一員に加えて戴き駒沢グラウンドにて短時間ではありますがプレー出来た事は晩年に於る小生にとっての快挙でした。

駄文を並べましたが稿を閉じるにあたり、今後の熊惑クラブの益々の隆盛と会員各位のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



戦後五十年の平和でコンピューターの時代、こんな世の中になっているとは考えもしなかった。

昭和二十八年(第八回国体四国)熊谷駅を出発、四国松山に向って列車は走る、翌日三時頃やつと松山着いた。今だと四時間、エアーバスだと二時間もすると着いてしまうでしょう。

その頃は集団就職で都会で働く若者達で一杯でした。私はJRの前進で国鉄(東鉄)ラグビー部に同窓の新井久夫君と全国制覇の夢のために入社、全国の名門出身で国体・花園等々で活躍された仲間と一緒に会して、それから日本大学の下高井戸のグラウンドで練習が始まった。来る日も来る日も(当時は日大が日本一の時代)日大一軍・二軍を相手に練習、しかし、東京の大会で横川電気に負け社会人としての国体の出場は一度も果たせなかった。。。。。

その後、父が交通事故で亡くなったため国鉄を退職、家業を継承した。埼玉国体を契機に、熊谷、川口、大宮、川越、所沢等県内各地から、名前もしらない『タダ』ラグビーのボールに魅せられ大勢の皆さんが集まって、国体の会場荒川グラウンドで熊惑の旗揚げ、それが四十歳の年であった。

私の家に当時の写真、8ミリ(秋元の所)等々がある。あれから早や二十周年、時の流れは時として、熊谷を中心にしたラグビータウン完成のために熊惑の力が底辺をささえてきた様な気がします。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)

熊谷不惑倶楽部二十周年によせて



20周年おめでとうございます。女子一同お祝い申し上げます。

私は、江戸川区で女子ラグビーを3年あまりやっていました。深谷に引っ越してからも、どうしても続けたい一心でチームを発足しました。部員は4～5人で時間、場所等、無理な環境だったため、兄(菊池)に相談したところ、会長に話しをしてくれました。当時部員は年に1回の全国交流大会(全国27チーム)に出場したい、ラグビーを続けたいという願いでした。最初にグラウンドで吉田会長が『どうぞ、グラウンドを使うくらいのことでしたらいつでも』とおっしゃってくださいました。私達は、さすがラグーマンと思いました。一瀬キャプテンをはじめ、クラブの皆さんとすぐに打ち解け合うことができました。何回目かの練習後、土手での寄せ鍋をしたとき、調理方法があまりにも大胆で驚きました。でも、出来上がった鍋のおいしいこと。ビールも飲みました。グラウンド使用の事務手続き、練習指導等、金田マネージャーをはじめ、皆さんにはすべての面で協力していただき、本当に頭の下がる思いです。

5年経ち、女子も20人近くに増え、藤原・大沢両コーチをはじめ、熊惑クラブ全員コーチのもとでラグビーをもっともっと知りたい、続けたい、そして、熊惑の皆さんのように、何才になっても、荒川に来ればラグビーを出来る所がある。女子も、そんな大きな、素晴らしいチームを目標にしたいと思います。

これからも、いろいろとお世話になること、迷惑のかかることが多いと思いますが、女子の明るい、可愛いほほえみで、サービスいたしますので、よろしくご指導をお願いいたします。

そして、熊惑クラブの益々のご健康と、ご繁栄をお祈りするとともに、20周年のお祝いの言葉と替えさせていただきます。

[前△](#)

[home](#)

[次△](#)



小生、只今五十八歳で、昔なら老人会の仲間入りを進められている年齢である。

髪は我ながらナイスミドルのシルバークレイになってしまっていますが、どこの会合に顔を出しても実年齢より5～6歳は若く見られる。これは、一重に私が着用しているラグーシャツのお陰である。シャツのカラーは、もちろん派手にこしたことはない。慶応、早稲田、明治、自由自在に毎日着分けている。節操などむろんない。もちろん、職業も食料品問屋という自営ゆえ、工作中だってこの通りである。その上、お客様方に、至って好評というおまけまでついている。そして、そのラグーシャツに恥じないよう毎朝早起きである。つまり、前夜、深酒を絶対しないという定義が成り立つ。まさに、ラグビー様様の三段論法である。

今後とも、「我がラグビー人生に栄光あれ」と熊谷のラグビーの発展を願う所存である。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



昭和51年4月に産声をあげた熊惑クラブも20年が過ぎました。振り返ればいろいろな出来事が昨日のように思い出されます。

初めての台湾遠征、試合が出来なかった神惑さんと合同の香港遠征、ラグビーの試合1回、ゴルフ2回のオーストラリア遠征、20cm積もった雪上での武惑との試合等々なつかしくよみがえって来ます。

20年のうち14年を主将として無事過ごせたのも素晴らしい仲間達の協力、各不惑クラブの諸兄のお蔭と感謝しております。

20年の過程のなかで新しく参加してくれた仲間も増える一方、転勤や病気、怪我等で脱会した仲間も今もってほとんどの人が交流があり、参加出来る行事には参加してくれる事は心強い限りです。この20年間培った来た良い気風をしっかりと残し、さらに30年40年を目指しまだまだ頑張っていく決心しております。又このページをお借りして会員諸兄及び各不惑クラブの諸兄に厚くお礼を申し上げます。

最後に次の目標に向かって又歩きだした熊惑クラブを今までに変わらぬ御厚情を賜りますようお願い申し上げます。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



熊惑クラブのレクレーション、皆野町のシンボル男岳・女岳の山歩きで、背負子に背負って歩いた娘も高校を卒業する年になり、わが熊惑人生も17年、この内10年は、熊谷少年ラグビースクールとのかけもちで、毎日曜日の荒川ラグビー場通いであったが、今振り返ってみると長く続いたというよりも、アツというまの17年の思いが強い。

菅平で行われた、関東クラブチームの交流試合における田圃のようにぬかるむグラウンドでの飯田ドンキーズとの試合、ラグビーボールが、全然バウンドしない雪上での武惑との試合など忘れられない試合もさることながら、試合や遠征のたびに酒席の話題を提供してくれる愉快的な仲間にも恵まれた事が、これまで楽しくラグビーを続けてきた理由の一つではないかと思えます。

不惑のラグビーは、チャンピオンシップを争うものではなく、ラグビーキチの仲間が交流試合を通じて、心地好い汗を流し、旨い酒を酌み交わし、雑談に花を咲かせるスポーツ本来の楽しみを満足させてくれるもので、熊惑クラブは、私にとって生活の一部であり、人生の潤滑油になっている次第です。

熊惑クラブも創立20周年を向かえて、会員も創立当時からの人達、途中からの人達と多士済々ですが、赤パンツでグラウンドに立つ人はまだいないので、赤パンツで走り回れる日を夢見て荒川グラウンド通いを続けたいと思えます。

こぼればなし

男岳(592m)・女岳(635m)の山歩きは、野上駅より出牛峠(300m)を經由するコースをとったが、野上駅をでて国道140号(秩父街道)脇の店で食料品等を購入した。この時、一瀬さんの「店はここが最後、下山するまでない」との言葉を信じ、船津さんはサッポロジャイアンツ4本購入し歩き出した。無事、出牛峠を越え男岳・女岳の登山口に着くとそこには立派な酒店がありサッポロジャイアンツも売っているではありませんか！

約1時間の無駄骨とも言える重いビール運び、おかげで頂上では美味しいビールが頂けました。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



月日の流れは早いもので、もう20周年になりますか、おめでとうございます。

私が仲間に入れて戴いたのは、38歳の時で最初の試合は対：不惑戦で羽田空港の近くのグラウンドだったと記憶しています。この試合で「学ぶ心」を学びました。

自分一人の頭で考え、自分一人の知恵で生み出したと書いていても、本当はすべてこれ他から教わったものである。

教わらずして、学ばずして、人は何一つ考えられるものではない。幼児は親から、生徒は先生から、後輩は先輩から、そうした今までの数多くの学びの上に立ってこそその自分の考えなのである。自分の知恵なのである。だから、よき考え、よき知恵を生み出す人は、同時にまた必ずよき学びの人であるといえる。

学ぶ心さえあれば、万物すべてこれわが師である。

語らぬ木石、流れる雲、無心の幼児、先輩の厳しい叱責、後輩の純情な忠言、つまりはこの広い宇宙、この人間の長い歴史、どんなに小さなことでも、どんなに古いことでも、宇宙の摂理、自然の理法がひそかに脈づいているのである。そしてまた人間の尊い知恵と体験がにじんでいるのである。

これらのすべてに学びたい、どんなことから、どんな人からも、謙虚に素直に学び、すべてに学ぶ心があって、初めて新しい知恵も生まれてくる。よき知恵も生まれてくる。学ぶ心が繁栄へのまず第一歩なのであると、試合を通じて学んだ。「ラグビーというスポーツは素晴らしい」

熊惑チームに、多くの仲間が増え、今後益々発展するのを期待しています。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



最近は稼業の料理店「鳥作」が忙しく、たまに試合にでると顔に大痣を作ったりするので、応援に回る機会が多くなりましたが、20周年記念誌ということですので、いくつか思出話などを披露させてもらいました。

私は熊惑クラブができた時からの会員ですが、遠征などにはバスの運転を頼まれることも多く、バスにまつわるエピソードが沢山あります。私が運転しながら後ろを振り向いて話すとみんな不安がりますが、長年の経験と勘で今までに一度も事故を起こしたことはありません。10年位前に神奈川不惑との試合で、夜になって帰り道に迷い、練馬あたりのどこかの団地に迷い込んだので適当にトイレ休憩したら近所の畑から大根を収穫してくる者が大勢いて、これには生産者もあきれたことでしょう。当時のキャプテンで私の義兄の秋元が一番積極的だったと思います。キャプテンといえば、今の一瀬氏にしても、決して品行方正だったわけではなく、余り多くは言えませんが、夜中に酔っぱらって深谷あたりの畑のネギをごっそり抜いてきてしまったこともあります。

また荒川グランドで練習中に野良犬がなぜか鶏をくわえてまぎれこんできたことがあります。このときは船津氏が四つん這いになって「ワン！」と吠えたら犬がびっくりして鶏を放してしまいました。その鶏を解放してやると思ったら大間違い、ある会員が当時の会員原口氏の経営する割烹「まんまる」に持って行き、料理して食べてしまったというので、「野良犬の餌を横取りしたやつ」と若い者にひんしゆくを買ったことがあります。

最近はお出かけませんが、船津氏は時々奇行をするので有名でした。4月の桜まつりの時は、毎年熊惑クラブも練習後鍋や焼き肉で花見をするのが恒例ですが、船津氏は余興が大好きで、あるとき、子供の持っていたポリ袋の中の金魚を土手の上に登り、大勢の前で面白おかしく飲んで見せました。それを生きたまま吐いて見せる芸のはずでしたが、なぜか何匹かは出てきませんでした。それ以来船津氏を見ると、顔をそむける子供が多くなりました。

それはともかく、現在私の店には過去10年以上にわたる試合で交換したペナントや盾、寄せ書きの記念ボールなどが保管してあります。最近孫娘が出来たので、段々と目立つ場所は孫の写真が占領し、記念品は隅に移動するようになってしまいましたが、一応クラブハウスが出来るまでは保管しておきたいと思っています。この20周年を契機に、どこかにクラブハウスを建設することを提案いたします。資金は会員や賛同者の寄付で何とかできるでしょう。5年から10年位かけて、長期的展望で計画したらいかがでしょうか。色々な試合の記念品や亡くなられた会員の写真などを飾って熊惑クラブの溜り場になればどんなによいかと思っています。

ついでに、皆さんの飲むビールのつまみ類は、「鳥作」で誠意をもって納入する所存です。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



熊谷不惑クラブ創立20周年にあたり、関係者に対し心より感謝を致し、お祝いを申し上げます。私も当クラブにお世話になって、15年になろうとしております。

現在51才の申歳で、ラグビーに親しんで36年になります。当初はラグビー技術の向上をと思っておりましたが、極めることなく、いつのまにか体力の衰えとともにストレス解消と健康の維持に専念する昨今であります。

当クラブに入る迄は、会社(株・ニチロ)のチームに携わっておりましたが、子供のラグビースクール入学を契機に仲間に加えて頂き、子供はとっくに卒業したのに親父は留年続きで、多分このままだろうと思う。しかしながら当クラブにお世話になって、改めてクラブラグビーの良さと、楽しみ方を、人間関係を含め教えて頂いたと思う。

体を動かした後のビール旨さはもちろん、不惑のラグビーの楽しさを、次の世代に継承すべく、私自身も切磋琢磨し、出来るだけ多くの人達と、続けていきたいと思っております。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



私とラグビーとの出会いは、昭和36年3月、熊谷商工高等学校に入学が内定し、クラブ活動の見学にいったときでした。

当時、熊商のラグビー部の顧問をしておられた森喜雄先生にお会いし、ラグビー部への入部を進められたことがきっかけでした。

そのころ埼玉県内の高校には、8校くらいしかラグビー部がなく、全国大会は埼玉、群馬、新潟の三県で一チームの出場でした。

私のポジションは、スクラムハーフでしたが、幸い第42回大会が2年生で補欠、43回大会が3年生でレギュラーとして近鉄花園ラグビー場の地を踏むことができました。

それまで、高校ラグビーの全国大会は、兵庫県の西宮球場で開催されていたそうですが、42回大会から開催地が大阪の近鉄花園ラグビー場へ移され、花園での全国大会1回目と2回目に出場することができ、今年の全国大会第75回大会の長い歴史の中の一齣に参加できたことを誇りに思っております。

当時は全国大会に出場しても、家族が応援にきてくれることもなく、先輩が何人か来てくれる程度でした。今とは隔世の感があります。

その42回大会には、現在深谷高等学校のラグビー部の監督であり、埼玉県ラグビーフットボール協会の理事長をしておられる尾崎良巳先生が、北海道代表の北見北斗高校の主将として出場し、準優勝を果たしておられます。

私が高校に入ってラグビーを始めてから、33年程たちましたが、高校を卒業したとき、やっと苦しい練習から解放されると思いホツとしたのが正直な気持ちでしたが、2～3年たちますと、ラグビーの魅力が忘れられず、熊谷クラブに入り、さらに、35歳くらいから、熊谷不惑クラブに移り、とうとう今年から紺の短パンを履ける年令にまでかかってしまいました。

これほどまで永くラグビーをやるとは夢にも思いませんでしたが、今ではラグビーの仲間とグラウンドを駆け回るのが何よりの楽しみとなりました。

他の不惑チームの諸先輩方が赤や黄色の短パンを履いて、グラウンドを走っているのを見ると、私もせめて黄色の短パンを履けるまでは、ラグビーをやっていたと思います。

最後に熊谷不惑クラブを創設された先輩方、現在も一緒にグラウンドを走っている仲間、神奈川、群馬、栃木等の各不惑クラブの皆様方に感謝するとともに、今後とも仲良くお付き合いのほど、よろしくお願い致します。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



ここ10年近く熊惑クラブの主務を拝命し、今日まで続けているが、本来の私は役員からはほど遠い一会員であった。高校時代に熊谷高校ラグビー部にいたが、大学は地方大学で、浪人して身体がなまっているし、ラグビーも野蛮に思えたので文学青年をしようと図書館に通い、漢字ばかりの史記の全文を借りたり、エドガー・アラン・ポーの英語の詩を得意げに読んでみたり、地質学研究会というサークルに出入りし化石採取に熱中し、また学生運動のさなかで授業がほとんどなかったのも、日本橋丸善に行きオクスフォードのギリシャ語やラテン語の辞書とホメロス、ウエルギリウス、オウィディウスなどの古典の原書を買込み、一行の解説に半日もかかりながらペダンチックな日々を送っていた。

学校を出て埼玉に就職して数年たったある日、毎日のような飲酒と馬鹿騒ぎの生活に終止符を打たねばという思いで、当時の仲間数人と再びラグビーを始めようということになった。荒川のラグビー場にいけば何とかなるだろうという考えだった。高校時代のジャージを身につけて来てみれば、何と私よりかはるかに年上そうなおじさんたちがボールを回していっちょまえに飛び跳ねているではないか。「これだ!」と思い、すぐ仲間になってしまった。以来私と根岸重年、飯田重雄が続けてお世話になっている。

さて、主務の歴史であるが、初代はたしか鯨井文夫さんだと思う。鯨井氏が仕事が忙しくてなかなか出てこれなくなり、私と同年の飯田重雄が実務を担当するようになったと記憶している。それから彼の弟飯田潔を経て、新井清さんに移ったのが昭和59年である。この頃の会計記録が残っており、年度途中で書体が変わっているのによくわかる。

私は、就職してからしばらく行田市に住んでいたが、通勤の関係で熊谷市に移転したのが昭和55年だった。このため、それまでよりも毎週日曜日に荒川運動公園ラグビー場に練習に行きやすくなった。当時練習のあと昼食を近くの中中華「一藤」でやるのが慣例のようになっていて、そのときは当然、大量のビールを消費していた。熊谷市に来て、自転車で練習にいけるのは大変なメリットであった。酒気帯びで自転車に乗るのも本来いけないそうであるが「自動車運転」ではないのは確かだから安心して飲める。しかし、おかげでたいした美食家でもないのに吉田会長に次いで名誉ある痛風持ちになってしまった。

そうこうするうち、全国区の会社に勤める新井清さんが昭和61年4月から転勤でクラブをやめることとなった。なぜかそのときには、後任が私ということが暗黙に決まっていたらしい。そうゆうことのきらいな私であったので、ワンポイントのつもりで引き受けたが、そのまま10年近くたった今でもやっているのはめになってしまった。その間副主務の方などにいろいろと仕事を引き受けてもらい、早めに勤務を移譲しようと考えていたのだが、なぜかその方たちは県外に転勤してしまったり、南極越冬隊で国外に行ってしまうたりして落ち着かない。最近私の性格は大変悪くなってしまったように思う。会員に会うとすぐに「会費を払ってください」と言いたくなってしまふ。もしや私が知らないだけでみんなが「あいつは、とてもいやなやつだ」と思っているのではないかと考えると冷や汗が出てくる。

そういうわけで、20周年記念行事が終わったら私は速やかに主務を辞めたいと思っています。会員の皆さんにお願いします。早めに後任の方を決めておいてください。

こぼれ話し

—晩 酌—

某年、8月15日それは起こった。

K高校OB戦、集合時間に遅れた私は突然ウイングへ、ボールが来る、走る、進まない、あせる“ダドーン”右足首を蹴られたと思った。アキレス腱断裂、入院。地球は回る、世界は動く、私は動けない。いびきの為個室へ、人生のたそがれが迫ってきたようで非常にさびしい。夕方4時半“夕食ですよ”の声と共に食事。5時やることできることは何もない。溜息一つ、その時“晩酌ですよ”会長の声、跳び上がり舞い上がる。

あの缶ビール、至福の缶ビール。ここにもラグビーのスプリットが大いに溢れている。アキレス腱にはビールをどうぞ。
アンちゃん

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



プロップ(Prop)という言葉に初めて出会った時、随分丸っこい感じの言葉だなと思いつつ辞書を開いてひどくびっくりした。そこには、なんと「つかい棒」と書いてあるではないか。プロップとは棒であったのか。その瞬間、このままプロップを続けることは、一生を棒に振ることになりはしないか、という深い危惧に囚われた。かって「箱男」という深遠かつ前衛的な小説があったが、棒よりは箱の方がよほど高尚なのではないのかと訳の判らないことまで考えた。しかし、自らあえて棒になろうとしている私にとって棒に市民権を与えるのが、私に課せられた使命であるに違いない。

市民権は近代市民社会の成立があってこそ本来の意味を持つ。幸いなことに、現況の国家テーマ不在の日本が永遠に実現できないであろう近代市民社会の一典型が、ここ熊惑ラグビーフットボールクラブには市民クラブとしての形態をとって見事に実現されている。近代市民社会の成立要因の基本は、平等と個人の自由意志の尊重が前提されることは自明の理であるが、その実現は極めて困難である。今の日本には、いわれなき差別そして自由意志という名の欲望がはびこり、社会の前進を疎外している。ところが、日本の一地方都市のラグビークラブである熊惑クラブが掲げる“ラグビーを楽しくプレイする”という非常にシンプルで明確なテーマは、差別も欲望も全く寄せつけず、無理解を排除しつつ、協力的な自浄作用を繰り返し20年を経過し、あるべき近代市民社会の一典型としての市民によるラグビークラブを創造した。グラウンドに集合する会員、遠征に集合する会員、キックオフの瞬間の会員、ノーサイドの瞬間の会員、ファンクションに集合する会員の解放感と喜悦とに満ち溢れたそれぞれの顔がそのことを雄弁に物語っている。

この成功は、熊惑クラブ全会員の透徹した見識と相互の尊重によって成り立っているのはいままでのないが、現吉田会長の『ラグビーを愛する者は、ラグビーをプレイするのであって、ラグビーをラグビー以外の道具としては使用しない。』と言う確固たる信念を全会員が了解し実践したことによる当然の結果なのである。

ラグビーはスクラムに象徴される集団競技である。その中で私は棒になろうと思う。徹底的に皆から信頼される棒になろうと思う。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



皆さん、こんにちは。

私は、菖蒲町に居住する、田中 博です。この度、熊惑クラブ創設20周年という事で記念誌発行大変おめでとうございます。

私と熊惑クラブとの出会いは、丁度10年前となります。熊惑クラブは毎週日曜日、荒川グラウンドで午前中の午前11時～12時を中心に、練習が行なわれています。私は仕事という理由をつけて月に、1～2回の練習参加を試みています。その為、最初の頃は、クラブ員の名前と顔が一致せず、無言で帰る日が多かったのですが、今では、月1回でも、仲間の方が、その様に見ていきますので、大変、気が楽であり、又、久しぶりに参加しても、割りとすんなり仲間に入れるクラブでもあります。最近では、紺パンが多くなり高齢化が進んでいると思いながらも、未長くラグビーを愛していける楽しみがある幸せを喜んでいます。

最後にラグビーは、一人が全員に、全員が一人に、対戦できる相手をいつくしみ、人との交流を大切に生きてまいりたいとおもいます。

クラブ員の方々の皆様に感謝申し上げ筆を終えたいとおもいます。

[前△](#)

[home](#)

[次△](#)



ラグビーとは何ぞや
四十を過ぎて、まだラグビー
いや、ますます夢中
何が魅力なのか
痛い、きつい、汚い
汗だらけ、泥だらけ
それでも、日曜日になると
フィールドに足が向く
体が動き出す
スパイクを履く
走り出す
ボールに触れる
この瞬間が
たまらなく好きだ
ある人が言っていた
「ラグビーは少年を早く大人にさせ
大人には子供の頃の夢を見続けさせる」と
きっと
子供の頃に
土の上で、草の上で
ボールを追って走り続けた
あの感覚が
体の中に、蘇るのだろうか
それとも、過ぎ去った
青春の日々が蘇るのだろうか
ラグビー・フィールド
ここは、私の青春そのものだ
きっと、何歳になっても
心の青春を求めて
ここに立つだろう

[前△](#)

[home](#)

[次△](#)



私がラグビーを始めたのが1964年、東京オリンピックの年ですから今年で32年目になります。お陰で大した病気や怪我をしなかったのはラグビーのお蔭と思っています。

さて、その間のポジションはプロップ、フッカー、ロックで得意の位置は右プロップです。ものの本によりますとプロップとは支柱という意味で、ロックはスクラムの第一列に鍵をかける意味、ラグビーを深く考えると普段なにげなく使っている言葉ももともと深い意味があるなと思います。

私はスクラムの前5人の位置しかやっていませんがこのポジションを気に入っています。それはまずスクラムが組める、ラック、モールに参加できる、これぞラグビーと言うポジションだと思うからです。最後に体に気をつけて赤パンツまではやりたいと思います。

こぼれ話し

－オーストラリア編－

熊惑クラブ第1回オーストラリア遠征のとき50数名の参加があり人員掌握に苦労しました。そのためBK、FWに分けて人数を確認しました。ところが全員無事にシドニー空港につき税関を通り国内線に向かい人数確認をしブリスベン行きの飛行機を待っている間、誰もO氏が税関を出入れずにいることは知りませんでした。彼は博多人形を抱え英語で説明出来ず一人寂しく税関でいじめられていたそうです。入国時彼は泣きそうで、とても180cm100kgには見えませんでした。

こぼれ話し

－オーストラリア編－

帰りの機中で私はトイレに行きたくなり最後尾のトイレに近ずいた時どこかで聞いたことの甲高い声がありました。『お前スポーツ選手がタバコを吸っては行けない(自分は吸いながら)お前は痩せ過ぎている。おめえより、デカイ奴を相手にしてきたんだ。ワハハ!!もう少し太れこの馬鹿』と喚いていました。それはなんとIキャプテンでした。頭を下げておとなしく聞いていたその人は、バレーボールのナカガイチという有名な選手だったそうです。

キヨシ

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



1991年10月、転勤により大宮へ、府中の社宅から『通勤を』と言われたが引っ越しをし埼玉県民となる。会社の先輩、竹田さんの勧めで熊惑へ、初めて練習参加の日は最後にゲームが行われ途中からウィングで出場、長い間、体を動かしていなかったせいか思うように動けず次の日曜日に向け毎日練習をした記憶が有る。先輩に追いつけ、追い越せと頑張っているがレベル高く大変です。

拘束せず自由にをモットーに(私の勘違い)伸び伸びやらせてくれるこのクラブの一員になれ非常に良かったと思っています。

転勤でいつ移動するかわからないが、熊惑そして熊惑の皆様とは一生、関わって行きますのでよろしくお願いします。

こぼれ話し

少年ラグビースクールの夏合宿、夜団欒の席で某さん、最近男性機能の喪失が著しく、なにか回復の方法はないものかと、嘆いておられたので、“〇〇が効く”“マタタビが一番”等々外野から口からでまかせ無責任なことを言いたい放題のなかで、付添いの某女史1本の清涼飲料水を出して「某さん、これ九州から手にいれたもので最高に効き目があるそうで、よかったらおわけします。」とのことで、ワラをもつかむ思いの某さんさっそく“〇千円”でわけてもらいました。合宿も無事終了し帰宅、飲んでみたが変化なし。同じ商品を“〇百円”で売り出しているCMを見てガッカリ。その後、機能が正常に回復したかは？

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



思い起こしますと熊惑クラブ入会時24才でした。発足後間もない頃で、スクラムの基本等故人になられた新井さん、今井さん、会長の吉田さん、高田さんには手とり足とり教えて頂きました。あの当時の熊惑第1列は本当に強かったことが思い出されます。まだ若く不惑の試合には出場できず他のチーム1列として出場したときはスクラムが楽にかんじられ程です。現在43才いまだに若手です。会員の皆さんにご迷惑をおかけしますが熊惑のよき伝統の強い1列を守り後輩に伝えていきたいと思えます。いろいろな職業、性格、年齢の人達が楽しめるクラブにこれからも不良中年として会員の皆様、キヨシと遊んでください。

こぼれ話し

ある冬の寒い荒川グラウンド、練習を終えてゲームを観戦していたら酔っぱらいの老人が近くで騒いでいたので、頭にきたOさん、ビニール袋に一杯水をいれて来て、その水を酔っぱらいに頭からざんぶとかけてしらぬ顔。酔っぱらいのオジサンひと呼吸おいてOさんに「誰か俺に水をかけたのがいる、知らないか」とたずねていたが、Oさんが「アッチ行きましたよ」と指をさすとそのオジサンぶつぶつ言いながら指さす方に去って行きました。

[前△](#)

[home](#)

[次△](#)



娘と息子が小学生の時、ラグビースクールにお世話になり、毎週日曜日には朝早くから荒川グラウンドに出掛け様子を窺っていると、10時頃から思い思いの出で立ちで集まる一団がありました。何やら楽しそうに騒いでいる一団を横目で見ながら、あまり近づかない方がいいかなと思っていましたが、ある日、「ちょっとやってみないか」と誘われ、何も考えず「いいですね」と返事したのが運の尽き？・・・でした。

平成3年5月5日、私が熊惑クラブで初めて練習に参加した記念の日です。ラグビーはもちろん運動経験はほとんど無く、運動不足解消を目的に軽い気持ちで入ったクラブで、とにかくボールに付いて走らされ、息も絶え絶えの苦しかった思い出が蘇ってきます。日曜日に練習すると、一週間の間、足の筋肉や関節が痛くて苦しみ、やっと和らいだ頃に、また次の日曜日が来て痛めるといった繰り返しの半年間でした。半年を過ぎて走る事に少し慣れてくると、すぐ試合に出され、数え切れない失敗や、転倒、怪我等、何度幸い思いをした事か・・・素人にはかなり辛いものがありました。それでも止めずに現在まで続いているのは、失敗しても、怪我をしても何故か止められないラグビーの不思議な魅力と、それ以上に「来る者拒まず、去る者追わず精神」の心が広く暖かい諸先輩方のおかげといつも感謝をしております。

ラグビーではまだまだ一人前とは言えませんが、熊惑だけでなく、神奈川、東京、群馬、栃木等、初めて会った人でもラグビーの話をするれば数十年の付き合いの如く親しみをもって話をして戴ける素晴らしい人達に交われた事を幸せに思います。

これからもラグビーを通して、スポーツの楽しさ、多くの人との交わり等、色々な意味で人生を楽しみたいと思います。熊惑20周年の記念すべき時に、こうして気持ちを認める事が出来、これまで支えて戴いた諸先輩方に感謝すると共に、これから先も素晴らしいと言われるクラブにする為の一員として頑張りたいと思います。御指導、御鞭撻を宜しくお願い致します。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



「……とにかくこれは、格闘技に違いなく、そのもっとも完璧な能力を要求されるのである。当たりの強さ、頭脳的なプレイと称される行為、なにより連携して球をつなぐその呼吸、ぼくは、ラグビーフットボールこそ、人類にいちばんふさわしいスポーツ、スポーツの名に値する行為であろうと思う……。」かつて、作家の野坂昭如氏が、ある新聞にこのように書いていた。今から20年前、明治大学が初の日本一になった年のことである。

1976年1月4日。大学選手権決勝は早稲田と明治との間で争われ、明治が18対7で早稲田を下した。その後行われた日本選手権でも明治は三菱自工京都を37対12で破り、初の日本一に輝いた。このときの中心選手は、日本代表に選ばれた津山、松尾(兄)のハーフ団、フッカー笹田、フランカー阿刀、ウイング井川、センター大山などがいた。どうしてこんな昔のことを細かく覚えているかという、この年、いや、もっと厳密に言えば、この大学選手権決勝の日が自分にとっての“ラグビー元年”だったからである。前出の野坂昭如氏の“言葉”に励まされ、私はラグビーを始めた。

その後いくつかのクラブでプレーし、国立や秩父宮にもよく足を運んだが、引っ越しや仕事の都合もあって、グラウンドを走ることはほとんど無くなってしまった。江戸川の土手をゆっくり走る程度だった。二年前、約15年ぶりに埼玉に戻り「熊谷になら自分を受け入れてくれるクラブがあるだろう。」と思い、紹介していただいたのが熊惑クラブだった。熊惑クラブが1976年に結成されたと聞いたとき、これまでの日々を思い出した。どこかで“接点”は無かったか、記憶をたどっていた。

練習の後の「千円パーティー」が楽しい。言いたい事を言っ合って、それが許される雰囲気がいい。いつまでもそんなクラブであってほしい。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



大学卒業依頼離れていたラグビーの虫が沸いてきたのが32才。若いクラブチームに入るにも中途半端な年齢。しかし、鳥作さんの口利きにより、心優しき熊惑の先輩方は、年齢的に若い私を心安くチームに加入させていただき、大変感謝いたしています。

そして、今や妻も子供もラグビー仲間。（妻はだまされた！！と言っております。）娘は親父よりラグビーセンスが良いという声があちらからもこちらからも。親父はひとりで反発したり納得したり。

私もバイタリティーあふれる先輩方と練習させていただき、はや6年。38才になり、遠慮なく遠征に参加させていただきたいと思っております。

赤パンはくまでガンバリましょう。

こぼれ話し

平成6年5月、秋田市で行われた不惑ラグビー全国交流大会には、上越新幹線で新潟まで行き羽越本線の特急に乗換え秋田まで移動した。新潟で指定席に乗り換え、それぞれ席に落ち着いたところ、1番最後にKさんが乗ってきた。そこには先客がいて??マネージャー氏は「全員同じ車両を手配したので番号をよくみて下さい。」切符を見れば6号車とあり1人だけ別車両。Kさん烈火の如く怒り出し「オレだけ1人仲間はずれで6号車とは何だ。オレは怒った。」とカンカンになって出て行ってしばしホームでこちらをニラミつけている。その時Sさんが「Kさん帰りの切符を見ているのちがうか。」の声に「Kさん切符の日をみてくださいよ。」と皆がいうと、Kさん「何?うるさい。」といいながら切符をみればなんと帰りの秋田→新潟の切符。さて、Kさんどんな顔で入ってくるかと皆注目してジーツと見ていると、Kさんバツ悪そうな顔で「ブツブツ、ヒ、ヒ、ヒ。」秋田に着くまでとしも静かでした。秋田遠征の笑い話しとして格好の話題となりました。

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)



ラグビーとの出会いは昭和45年、熊谷工業高校のグラウンドであった。以来25年、4年のブランクは有ったが楕円のボールと共に人生を歩んで来た。

学生時代は1年生から3年間マネージャーとして活動した。ただ部員数が少なく一年生の後半からレギュラーとして出場させて頂いた。当時のグラウンドは梅雨時は田圃となり、夏合宿は砂漠となり、我々の汗・涙・血そして仲間も奪っていった。残念ながら3年間一度も花園の土を踏むことなく卒業してしまった。しかし、一点差に泣いた事が花園へ行った人達より一層ラグビーへの愛着が深くなったと確信している。

卒業後は先輩に誘われて「熊谷クラブ」へお世話になった。当時の熊谷クラブはメンバーがいつも集まらず前日夜遅くまで電話で人員確保に努めていた。試合当日になると12～13人で試合を始める事もしばしばあり相手チームに大変申し訳なかった。しかも試合が終わると熊谷クラブの得点が多いのである。そこへいくと流石、熊惑クラブである人集めの苦勞がない、しかもプレイは現在の熊谷クラブもそうであるが、連携プレイがみごとである。

26歳～29歳までは北海道勤務のため4年間はスポーツから離れていた。30歳になり再び熊谷クラブへお世話になった。しかし、ウェイトオーバーと練習不足により肩・膝・肘・踵・首と次々に怪我をし皆さんに迷惑をかけてしまった。

現在熊惑クラブにお世話になり楽しむラグビーをご指導していただいております。最後にこの場をかりて一言

「指導して下さった多くの先輩・友そして先生ありがとうございました。」

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)

熊惑20周年思い出のスナップ



51.8 第一回合宿 水上アスレチック



群惑戦



52.5 三笑亭夢之助の集材風景



52.6 TBSの取材



62.4 練習後の花見



55. 台湾遠征



台湾遠征の試合

物故者への慰霊



60. 11. 7 試合前祭壇への献花



初代会長 山本先輩 東大在学時のHB (右)



初代会長 山本先輩 群惑戦時のHB



新井先輩 47番の左



三遊亭夢之助を中心にして右：伊東先輩 左：今井先輩



寺坂先輩の遺影を胸に 61.7.6 菅平



59.7.8 菅平 関東クラブチーム交流試合



房惑戦



6. 1 1. 2 3 三惑对抗戦 神惑戦



平成元年

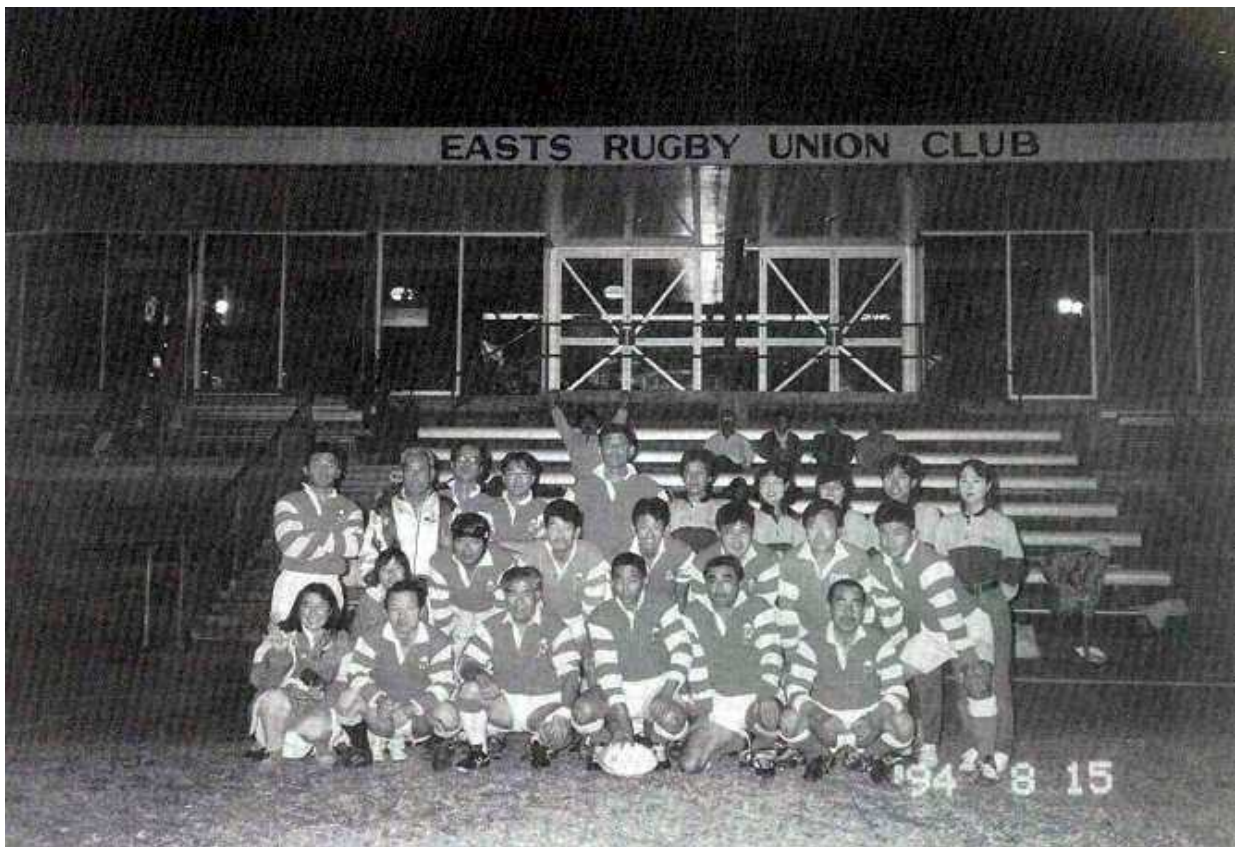


1. 1 2. 6 キングフィシャーズ来熊 歓迎晩餐会





3. 8 オーストラリア遠征





6. 8 オーストラリア遠征

[熊惑20周年思い出シーンへ](#)

[home](#)

[1976/4/19記事へ](#)

熊惑20周年思い出のシーン

神惑戦(S50年代)



S61.7.6 菅平 関東クラブチーム交流試合



房惑戦



S56.5.3 男岳・女岳のハイキング



H2.11.14 晴海埠頭 池谷さん南極出発見送り



H1.12.6 キングフィシヤーズ来熊・歓迎晩餐会



1989.12.6 キングフィシヤーズ戦



1994.8.15 オーストラリア遠征



H6.5.4 秋田 全国不惑交流試合





H6.11.23 三惑对抗戦



不惑戦(水戸：関東甲信越大会)



H7.3.5 神惑戦



H7. 4. 2 神惑との野外懇親会





[home](#)

[1996.20周年スナップへ](#)

熊惑クラブ20周年誌に広告いただいた団体及び企業

Advance英会話教室	熊谷市箱田2-14-8	0485-25-2058
小川工業株式会社	行田市桜町一丁目5番16号	0485-54-4111
西京屋	熊谷市鎌倉82	0485-22-1440
サウナ三朝	熊谷駅南口徒歩60秒	0485-26-7000
(有)城西技研	行田市城西町4丁目14番32号	0485-36-9411
上海楼	熊谷市宮町2-54	0485-24-6457
大 将	北埼玉郡南河原村	0485-57-2525
鳥 作	熊谷市宮町2-163	0485-21-4680
(有)アスカボデーショップ	行田市長野3-27-1	0485-53-6799
飯田獣医医科医院	熊谷市上之1313-5	0485-24-5195
大戸工業株式会社	熊谷市肥塚788-1	0485-21-0183
株式会社熊谷青果市場	熊谷市佐谷田1422番地	0485-21-6511
株式会社T O K Y O 宣美	渋谷区千駄ヶ谷3-35-3	03-3404-0171
ダスキนมつざき	熊谷市上之1886-1	0485-21-1366
株式会社沼尻電機	熊谷箱崎1丁目7番15号	0485-22-1530
カンタベリーショップ神田	世田谷区下馬5-35-3-B101	03-3295-3488
水戸屋	比企郡滑川町和泉383	0493-56-3395
リノンツーリスト	ダイエー行田3F	0485-55-3180
平野モータース	熊谷市本石2-91	0485-24-1378
PUB SNACK ピン	熊谷市弥生1-51	0485-23-9119
山幸建商		0485-32-6638
リンクック株式会社熊谷工場	熊谷市大字万吉字夏目3478	0485-39-1212
ホテルサンルート熊谷	熊谷市曙町2丁目22番地	0485-25-3131

[前へ](#)

[home](#)

[次へ](#)

編集後記

熊惑クラブ20周年記念誌の原稿依頼に快くペンを執り御寄稿頂いた方々のご厚情に対し、心から感謝とお礼を申し上げます。お陰様で無事記念誌を刊行することが出来ました。

当初は盛り沢山の構想で原稿を作りましたが予算の関係もあり内容を一部割愛せざるをえなくなりました。このため出来上がった記念誌に不備な点多々あるかと思いますが、これら不備なところは30年、40年の記念誌を発刊されるであろう後輩諸君の努力に期待したいと思います。

最後に、芦屋楽惑の樋口会長には阪神大震災の痛手も生々しいなか、快く御寄稿いただいたうえに「日本・ニュージーランド ラグビー交流史」の小冊子までいただき誠にありがとうございました。震災にあわれた芦屋楽惑クラブ会員の皆様の復興を熊惑クラブ一同心よりお祈り申し上げます。

平成8年4月吉日

創立20周年記念誌委員会

代表 櫻田 健次郎

[前へ](#)

[表紙へ](#)